

大項目 9 社会貢献

【目標】

これまでに築き上げてきた社会との交流を促進するシステムをより充実し、美術・デザインの専門大学として本学の有する知的資源を社会に積極的に還元することにより、文化の創造発展に寄与する。

また、学務事務組織に地域貢献、産学連携を推進・支援するセクションを位置づけ、社会貢献に関する情報を一元化することにより、本学の社会貢献に対する基本姿勢やビジョンを学内で共有するとともに、社会に広く情報発信することを目指す。

さらに、こうした環境を整える中でこれまで単発のプロジェクトごとに展開されてきた近隣自治体等との地域連携をより体系的に進め、交流を深める。

具体的には、①産官学委託・共同研究の受入にかかる基本方針の策定と知財ポリシーの確立、②大学の地域貢献への取組を総体的に把握し、社会に情報発信する体制・システムの確立、③小平市をはじめとした近隣自治体等との体系的な連携を進めるための基盤づくりを推進する。

1) 大学・学部の社会への貢献

【社会への貢献】

B群 ・社会との文化交流等を目的とした教育システムの充実度

- ・公開講座の開設状況とこれへの市民の参加の状況
- ・教育研究上の成果の市民への還元状況
- ・国や地方自治体等の政策形成への寄与の状況

●現状把握

(1)公開講座

本学では、大学での教育及び研究の成果を広く社会に開放し、社会人の教養を高め、文化の向上に資することを目的に、地域社会への貢献という使命から1991年度より公開講座を開講している。これまでの公開講座については本項目末の資料1のとおりである。

(2)地域フォーラム「アート&デザイン」

本学では、1995年度から校友会との共催により、進学相談会等の機会に、地方で地域フォーラム「アート&デザイン」を開催している。1995年度から1997年度までは毎年2会場で、1998年度以降は毎年1会場で開催、本学教員や地元の有識者を講師、パネリストとして迎え、地方自治体、大学等との連携のもと、近年はワークショップ

社会貢献

やパネルディスカッションを中心に実施している。

2006年度の内容は本項目末の資料2のとおりである。

(3) 地方自治体との共同プロジェクト

本学ではこれまで各学科または複数学科による地方自治体との共同プロジェクトが実施されてきた。そのうち、2001年度から2006年度の間実施された取り組みについては本項目末の資料3及び資料4のとおりである。

(4) 現代GP「いわむろのみらい創生プロジェクト」

2006年度現代GPに「いわむろのみらい創生プロジェクトー地域のグランドデザイン形成を担う人材の育成と実践的教育プログラム」が採択された。この取組では、武蔵野美術大学のもつ教育研究資源を拡充し、新潟県新潟市岩室温泉の地域と協同して、アートとデザインによる地域活性化の提案を行う実践的教育プログラムを構築する。2002年度及び2004年度に行った「アートサイト岩室温泉」(本学卒業生の卒業制作を岩室温泉に展示。コンサートやワークショップを同時開催)で確立した旅館組合や地域住民との信頼関係を基盤に、地域の特性とニーズをより深く学び、地域に相応しい未来のあり方を住民とともに模索しながら、地域環境の創生、製品の開発、コミュニケーションの活性化をアートとデザインの視点からトータルに提案していく。2008年度まで続くプログラムであるが、2006年度にはいわむろのグランドデザイン・コアコンセプトの形成と、街路灯のデザイン、観光複合施設の基本設計、ロゴマーク・タイポグラフィーのデザイン、公園再計画などの個別デザインが実施された。

(5) αMプロジェクト

1988年、本学は大学発祥の地、吉祥寺にギャラリーαMを開設した。このギャラリーは、「都心と多摩地区の接点に位置する吉祥寺に、新たな文化運動の拠点となるような作品発表の場の設置」、「ユニークな活動を展開している若いアーティストに作品発表の機会を与える」等の要請に応えると同時に、大学と社会との接点としての役割を担うものとして設置された。展示は全て企画展示で1回の展示期間は4週間、年間8回の展示を行っていた。運営企画は2年を単位として、委嘱を受けたキュレーターが企画立案し、運営に当たるというシステムをとっていた。

ギャラリーαMは2001年度に閉じられ、2002年4月からαMプロジェクトとして再スタートすることになった。新たにαMプロジェクト運営委員会が組織され、委員会で年度ごとにゲストキュレーターを決定、ゲストキュレーターのもとで展示の企画立案が行われている。2002年度は「ギャラリーTOM」(渋谷区松濤)、2003年度からは「アートスペース キムラ アスク」(中央区京橋)を会場としている。

2006年度の活動内容は本項目末の資料5のとおりである。

(6) 美術資料図書館展示

詳細は点検項目「図書館」によるが、美術資料図書館では教育研究のための所蔵コレクション(椅子、陶磁器、油彩画、ポスター、民俗資料など)の展示や教員の退任

記念展、助手展など年間 10 回ほどの企画展を開催し、教育研究の成果を市民が自由に鑑賞できる機会を提供している。

(7) 国や地方自治体等の政策形成への寄与の状況

国、地方自治体等から本学専任教員の専門分野での知見を求めて、各種審議会委員・審査委員・調査委員等の委嘱がある。2006 年度には、派遣先の機関から委嘱状の請求のあったもので 21 人、延べ 26 の機関から 49 の委員の委嘱を受けた。

(8) その他

地域への貢献については、上記の他に学生の自主企画を大学が支援するものとして、小平野外彫刻展がある。

1988 年 3 月、彫刻学科の自主企画「鷹の台野外彫刻展」として発足、その後「小平野外彫刻展」、「小平野外アート」、「野外アートフェスティバル」と名前を変更し、現在に至っている。この企画には大学が支援するとともに、小平市から場所の提供と作品搬送費などの支援をいただいている。毎年 11 月初旬に小平中央公園で彫刻学科の学生作品を中心に展示され、日常市民の憩いの場が造形作品に囲まれた芸術空間となり、市民の方にご覧いただいている。2006 年度は 20 回目を迎え、15 点の作品が展示された。

●点検・評価

まず、公開講座については 1991 年に開講以来、2006 年度に至るまで、美術・デザインの専門大学として社会の要請に応えるべく、テーマ、内容、講師、形式などについて、受講者へのアンケート結果を分析、様々な角度から検討を行い、先進的な取り組みを積み重ねてきている。2006 年度の受講者アンケート結果を見ても、その内容について好評を得ていることが伺える。

しかしながら、美術・デザインの専門大学としての特徴である集中授業形式との関連や夏期には通信教育課程のスクーリング授業が実施されるなど、講座会場となるアトリエ、工房、演習室に物理的な制約があることから、実技・演習系の講座の開設については残念ながら市民の要望に十分に答えきっていないとは言えない状況である。

公開講座の他、地域フォーラム「アート&デザイン」、αMプロジェクト、美術資料図書館展示、地方自治体との共同プロジェクト、小平市野外彫刻展、専任教員個々の教育研究活動における社会貢献など、様々な取り組みを展開している。これにより、「美術・デザインの専門大学として本学の有する知的資源を社会に積極的に還元することにより、文化の創造発展に寄与する」という目標に対し、概ね達成しているものとする。

次に実施体制に目を向けると、本学が実施してきた社会貢献活動に関し、公開講座、地域フォーラム「アート&デザイン」、αMプロジェクトなどは企画部が所管し、地方自治体との共同プロジェクトについては法人事務部研究支援センターが統括するなど、複数の事務所管が分担している状況である。これらの社会貢献活動を大学総体として展開し、有機的関連性を持つ取り組みとして体系化を進め、更なる推進を図る組織の具体化が課題である。

社会貢献

また、小平市との連携については各部・各学科研究室などがそれぞれ受入窓口となり、多様なプロジェクトが実施されてきた。2004年2月に研究支援センターが設立されて以降、新たなプロジェクトの受け入れ窓口として研究支援センターにほぼ集約されつつあるが、小平市とのより体系的な連携を進めるための基盤作りが求められている。

これまでの小平市との連携については、本項目末の資料4のとおりである。

<2006年度公開講座「美大でアートを体験する」(鷹の台校)アンケート結果>

●応募者の住所エリア

	小平市	都下	23区	埼玉県	関東地区	その他	合計
ガラス入門	24	6	4	3	1	0	38
油絵講座	20	12	0	1	4	0	37
油絵技法講座	12	7	2	1	2	0	24

●受講後の印象

	良かった	まあ良かった	あまり良くなかった	良くなかった
ガラス入門	17	0	0	0
油絵技法講座	17	1	0	0

*油絵講座は、データなし

●今後どのような講座を希望するか(記述式)

- ・ステップアップした講座 (Part.2のようなもの)
- ・吹きガラス
- ・陶芸、焼物
- ・版画
- ・模写(古典)
- ・基礎を学びたい者、初心者に向けての講座
- ・3ヶ月位の単位での講習
- ・先生のトーク形式 など

<2006 年度新宿サテライト公開講座・アンケート結果>

○ 受講後の印象

	良かった	まあ良かった	あまり良くなかった	良くなかった
音楽	14	10	1	0
デザイン	21	13	2	2
歴史	35	1	1	0
映像	32	7	1	0

*今後の希望講座についてのアンケートは実施せず。

●改善・改革方策

第二期中央教育審議会答申『我が国の高等教育の将来像』では、社会貢献の役割が教育、研究に続く大学の「第三の使命」として重要視するべきであると指摘している。また、現実に社会への貢献は大学と地域社会をつなぐ結節点であり、地方自治体や企業、諸団体、そして市民と大学との架け橋となるものである。

こうした課題を踏まえ、本学は「大学の地域貢献への取組を総体的に把握し、社会に情報発信する体制、システムの確立」を目標に掲げた。現在、法人、教学連携のもと、学務事務組織運営会議において各部で個々に実施している社会貢献活動を大学全体の取組として有機的に関連づける組織の具体化を図るため、学務事務組織の 2008 年 6 月の改組に向けて検討中である。

こうした組織を実体化し、学内において社会貢献に関する情報を集約し、本学の基本姿勢やビジョンを共有する環境を整え、より効果的に社会に広く情報発信する。

また、小平市との連携については、協働を継続して進め、より体系的な連携を図るための基盤作りに向けて、2007 年 4 月より小平市産業振興課との協議を開始した。具体的には小平グリーンロードを観光資源として、地域振興や産業振興に結び付けていくための様々な取組を行っている「グリーンロード推進協議会」(小平市及び市内諸団体で構成)の理事に、2007 年度より本学の産官学共同研究推進委員会委員長を推薦することとした。このことは、小平市との関係を継続的かつ緊密なものとし、活力ある地域社会の創造のための連携システムの構築に向け、その展望を切り拓くことを可能にする。

【企業等との連携】

●現状把握

本学は以前より様々な形で産学の共同研究、受託研究を行ってきたが、2004年4月よりこれを全学的な支援体制のもとでさらに展開していくために、「学校法人武蔵野美術大学産官学共同研究規則」の制定など規則の整備を行い、受け入れ窓口として研究支援センターを設置するとともに、産官学共同研究推進委員会を立ち上げた。

2003～2006年度の取り組みは本項目末の資料6のとおりである。

●点検・評価

上述のように2004年度から企業等との共同研究、受託研究の規則、受け入れ体制を整備することにより、教育研究の充実に向け、更なる企業等との交流促進を図っていることは、評価できる。

一方、産学共同研究、受託研究の契約では、とりわけ海外の企業とのプロジェクトにおいて知的所有権の所属及び実施権の取り扱い等が問題になることがある。知的所有権に関する大学の基本的な考え方を確認し、本学の知財ポリシーを確立することが求められる。

また、研究支援センター、産官学推進委員会の設置後、企業等から申し出のあったプロジェクトについて、随時受入れの是非、受入れ体制、方法を委員会で検討してきたところであるが、この間の経験を踏まえ、本学としての産学研究プロジェクトの運営方針（受入基準等）を策定するべきであろう。

●改善・改革方策

2007年度より産官学共同研究推進委員会に部会を置き、共同研究、受託研究の受け入れ方針の策定及び知財ポリシーの確立のため、検討を開始する予定である。

2) 大学院の社会への貢献

【社会への貢献】

B群 研究成果の社会への還元状況

国や地方自治体等の政策形成への寄与の状況

●現状把握

現在本学の大学院には大学院専任教員はおらず、全員が学部との兼任となっている。また、研究組織においても、基本的に学部11学科の教育組織（研究室）を基礎として構成されており、研究所組織も有していない。

学部の現状把握の項で掲げた社会貢献活動は、学部と大学院を合わせた大学総体としての取り組みであり、それぞれの企画には大学院生が参加している活動を多く含む

が、大学院独自あるいは単体としてのものはない。

●点検・評価

公開講座、地域フォーラム「アート&デザイン」、αM プロジェクト、産官学共同研究などや教員個々の社会的活動は、大学院を構成する教員の研究成果の社会への還元そのものであり、積極的な貢献を果たしているものとして、評価できる。

●改善・改革方策

「専任教員プロフィール集」の国、地方自治体への配付やホームページの充実など一層の情報公開を図り、本学が保有する研究資源を広く社会に周知することにより、社会還元、政策形成への更なる寄与を促進するよう努める。

社会貢献

資料 1 公開講座一覧

○1991年度～1996年度 主に講義中心の講座

- ・「造形美を探る」を基本テーマとして、色、形、空間、装飾、人間と表現、発想と表現、くらしと造形など多様な切り口から造形美を探る講義
- ・グラフィック・デザイン、テキスタイル、陶磁、エディトリアル・デザインなどデザインの様々な領域の第一線で活躍する卒業生からの講義「デザインの現場」
- ・美大の授業からという共通の視点のもと、「風土とかたち」、「美の実験」、「新しい時代へ」などをテーマに、本学の専任教員を中心とした指導陣による講義
- ・「名誉教授－自作を語る」

○1997年度～ ワークショップ、ギャラリートーク、対談などを中心

- ・ワークショップ（2003年度から「美大でアートを体験する」）
洋画、日本画、絵画技法、アニメーション、ガラス、陶芸など。
- ・「造形美を探る」 ギャラリートーク
- ・2004年度より「新宿サテライト公開講座」 対談

○2006年度に開催した公開講座の概要

美大でアートを体験する（鷹の台校）

講座名	教授	日程	定員	受講者数
ガラス入門「菓子器をつくる」	斎藤昭嘉教授 近岡令非常勤講師 工芸工業デザイン学科研究室	8/28、8/29、 8/31、9/2	20名	19名
油絵講座「静物/人物を描く」	遠藤彰子教授 油絵学科研究室	11/2、11/6、 11/9	20名	20名
油絵技法講座「古典技法で自画像を描く」	斎藤國靖教授 油絵学科研究室	11/11、11/18	20名	20名

新宿サテライト公開講座（新宿サテライト）

講座名	教授	日程	定員	受講者数
音楽「作曲家・武満徹の音楽とビジョン」	白石美雪教授（音楽） 宇佐美圭司（美術家）	10/18	90名	49名
デザイン「栗津潔の横断的デザイン」	及部克人教授（視覚伝達デザイン学科） 榎本了壺（クリエイティブ・ディレクター）	11/7	90名	81名
歴史「大相撲と土俵の美」	今岡謙太郎教授（演劇） 内館牧子（脚本家）	11/15	90名	57名

映像「司馬遼太郎作品と映像-時間軸上のジャンプ」	篠原規行助教授（映像学科） 吉田直哉（映像学科客員教授）	11/29	90名	64名
--------------------------	---------------------------------	-------	-----	-----

資料2 2006年度地域フォーラム「アート&デザイン」

月 日：2006年9月30日

場 所：千葉市 ぱ・る・るプラザ CHIBA 3F ぱ・る・るホール

主 催：武蔵野美術大学、武蔵野美術大学校友会・千葉支部

後 援：千葉県、千葉県教育委員会、千葉市、千葉市教育委員会、朝日新聞千葉総局、産経新聞千葉総局、株式会社千葉日報社、東京新聞千葉支局、毎日新聞千葉支局、読売新聞千葉支局、NHK千葉放送局

テーマ：今日という一日を昔、未来と呼んだ 千葉発・音楽と映像とデザインのあけぼの

内 容：①オーケストラ演奏

演奏「東京五美術大学管弦楽団」 指揮 諸岡範澄

②競作！ムサビアニメーション全学卒業制作作品上映

長沢秀之教授、陣内利博教授

③シンポジウム

「千葉から帝国美術学校、東京高等工芸学校、美術教育とデザインのあけぼのを確かめる」

柏木博教授、森仁史（松戸市教育委員会・学芸員）、高島直之教授

④ロビー展示

「大学から地域へ 地域から大学へ」

千葉の文化活動

- ・ 千葉に住み日本の心を描いたフランス人画家 F・ビゴー
- ・ 新発見、千葉あれこれフォトマップ
- ・ ワークショップ「らせんするよもやま」
- ・ えほん通り

大学の出前講座

- ・ 積木デザイン出前講座
- ・ ムサビアニメーションワークショップ「動きをデッサン」する
- ・ ワークショップ「フランツ・チゼックによる『自由に描く』」
- ・ 千葉から帝国美術学校、東京高等工芸学校、美術教育とデザインのあけぼのを確かめる（作成カタログ）

来場者：延べ515名

社会貢献

資料3 2001年度から2006年度までに取り組んだ地方自治体との共同プロジェクト(小平市との連携を除く)

- 新潟市岩室温泉
 - ・建築学科・空間演出デザイン学科等と新潟県岩室村等との「アートサイト岩室温泉 2003」
 - ・全学的に取り組んだ「アートサイト岩室温泉 2005」及び「アートサイト岩室温泉 2007」
- 岐阜県恵那郡加子母村
 - ・空間演出デザイン学科と岐阜県恵那郡加子母村教育委員会との「加子母歌舞伎大会における舞台美術の創作」
- 福島県いわき市遠野町
 - ・空間演出デザイン学科といわき市遠野町との「遠野生活アートギャラリー別棟の整備と修復作業」
- 神奈川県川崎市
 - ・空間演出デザイン学科と川崎市との「光の祭典『かわさきインナイト 2002』のイルミネーション制作とパフォーマンス」
- 徳島県神山町
 - ・芸術文化学科と徳島県神山町によるワークショップ
- 大分県大分市
 - ・彫刻学科と大分市（大分大学、ムッチャン平和像愛護会）との「ムッチャン平和像補修処置」
- 東京都世田谷区
 - ・視覚伝達デザイン学科と世田谷区烏山商店街との「世田谷区商店街・街づくり絵本プロジェクト」
- 東京都府中市
 - ・彫刻学科と府中市との「彫刻のあるまちづくり事業」
 - ・彫刻学科と府中文化振興財団との「府中市郷土の森博物館彫刻保存処置」
 - ・彫刻学科と府中市との「府中市パブリックアート作品分析調査」
 - ・彫刻学科と府中市との「府中市パブリックアート作品分析調査・保存処置」
- 東京都日野市
 - ・共通絵画研究室と日野市による「多摩都市モノレール線程久保駅前道路擁壁修景事業」など

資料4 これまでの小平市との連携

1. 教育活動

- 基礎デザイン学科と小平市役所との「小平市の公共デザイン」
- 基礎デザイン学科— 2000年度卒業研究「小平市のバス計画」

卒制展終了後、市役所で数人の職員の方々を前にしてプレゼン。その結果として、2年後のコミュニティーバス導入のためのバスルートの調査及び車両のデザインというテーマをもらい、次の年の学生2人がこれに取り組み、再度市役所でプレゼンを行った。
- 基礎デザイン学科— 2005年度前期「色彩論II」（6週間）「小平市のカラー計画」

2年生全員が20グループに分かれ、小平市を各グループで調査を行い、それぞれで問

題点を探し出し、手法として必ずしも新しく付け加えてつくりだすのではなく、それぞれの対象において、要素をマイナスすることも考慮に入れることを含んで展開を行った。

○視覚伝達デザイン学科—2004年度卒業制作

NPO「小平市エコダイラネットワーク水と緑の部会」と小学校との協働による小平市環境マップづくり(環境デザインB)

玉川上水巨大ジオラマを作成し、小平市第9小学校に寄贈。

○美術と福祉プログラム

2. 研究活動

○齋藤素巖遺作研究、展示、グリーンロード作品設置にかかる助言

2005年度、小平市産業振興課が所管するグリーンロード推進協議会が中心となって、狭山・境緑道への齋藤素巖のブロンズ作品の設置事業が実施されることになり、小平市から武蔵野美術大学研究支援センターにこの計画への助言と協力の要請があった。

大学としては「小平市所蔵齋藤素巖遺作研究と作品の保存・活用について」というテーマのもと、小平市教育委員会の藤井明氏を研究分担者に加えた学内共同研究として以下を進めた。

- ①個々の作品についての制作年代・題材等の調査
- ②個々の作品についての保存状態調査と記録調書作成
- ③設置が予定される公共的ロケーションでの作品展示の基本方針についての助言
- ④齋藤素巖展(本学美術資料図書館と小平市公民館での同時開催)

○彫刻学科と小平市グリーンロード協議会との「小平グリーンロード彫刻保存プロジェクト／齋藤素巖ブロンズ作品小平コレクション保存処置」

○小平市民文化会館(現ルネこだいら)レリーフ制作・設置

1992年7月、小平市より本学共通彫塑研究室に、1993年3月竣工予定の、小平市民文化会館の1階ロビー壁面を飾るレリーフの制作依頼があった。共通彫塑研究室では、過去に江戸川区の要請に応じ緑道に設置する立体作品を制作した経験があり、この経験を生かして、研究室スタッフ全員による共同制作として受託することとし、法人と小平市との間で業務委託契約を締結した。「集落から都市へ」と題された作品は1993年6月に完成、1階ロビーに取り付けられた。

○2005年度本学研修会

全体会:小平市長挨拶「地域と大学の連携へ向けて」

分科会:藤井明氏(小平市教育委員会・平楡田中館学芸員)による事例報告

3. 委員等の委嘱

○小平第六小学校での故山口長男先生の作品展示の講師派遣及び協力依頼

「六小美術館小平市内学校所蔵・山口長男作品展」

期間:2003年11月28日～30日

主催:小平市教育委員会

日本の抽象絵画の先駆者のおひとりである故山口長男本学名誉教授は、生前より小平市の小中学校に1点ずつ作品を寄贈された。先生の没後20年を記念して、寄贈作品に遺族から借用した作品を加えて、にわか仕立ての「六小美術館」で展覧会が開催された。大学は小平市及び第六小学校より、展覧会において山口先生の作品を小学生に解説する人を紹介して欲しいとの依頼を受けた。その実現に向け、大学は

社会貢献

油絵学科池田良二教授を紹介し、市及び六小と調整を図った。展覧会初日には、池田教授の講義とワークショップが行われた。また、第六小学校の依頼により、展覧会の会場設営、開催期間中の会場監視及びワークショップのサポートのため、学生ボランティアの派遣を行った。

○委員等の委嘱(2004～2006年度)

「環境ポスターコンクール審査員」、「明るい選挙啓発ポスターコンクール審査員」

「小平市グリーンロード推進協議会理事」

「小平市国際交流協会理事」

その他公民館主催公開講座への講師派遣

4. 学生の課外活動

○野外アートフェスティバル

1988年3月、彫刻学科の自主企画「鷹の台野外彫刻展」として発足、その後「小平野外彫刻展」、「小平野外アート」、「野外アートフェスティバル」と名前を変更し、現在に至っている。この企画には大学が支援するとともに、小平市から場所の提供と作品搬送などの支援をいただいている。毎年11月初旬に小平中央公園で彫刻学科の学生作品を中心に展示され、日常市民の憩いの場が造形作品に囲まれた芸術空間となり、市民の方にご覧いただいている。

○学生サークル・造形教育研究会「アトリエちびくろ」の活動

「アトリエちびくろ」では小平市内及び近隣の小学生と一緒に月に1～2回様々な造形活動を行っている。毎年6月には本学キャンパスにおいて「野焼き」を行う。子どもたちは、自分が作ったものが粘土から焼き物に変わっていく素材の変化を見つめ、火や土や風を感じ、劇的な体験をするとともに火の安全な扱い方を学ぶ。学生も、子どもたちと同じように自然の力や造形の魅力を感じ、子どもたちの反応を見、刺激を受けながらともに成長する。また、夏休みには茨城県岩間町の岩間第一分校跡で「夏の図工教室」を開いている。2005年度には五つの班に分かれ、七器づくりや草木染め、勾玉づくり、小屋づくり、楽器づくり、御輿づくり、浮き輪づくり、バッチづくりなど、たくさんの活動を通して、大学生と小学生が一緒になって悩み、工夫をしながらワクワクする時間を過ごした。

○小平消防署からの依頼を受け、学生が住宅模型を作成

小平消防署から住宅への火災警報器の設置のPRキャンペーンの一環として、住宅模型の作成について、学生の協力を仰ぎたいとの依頼があった。大学では建築学科の学生を紹介し、3名の学生により、実物の器財を取り付けたミニチュアの住宅模型(高さ約1.5m、幅約1.8m、奥行き約0.4m)を制作した。

○ブルーベリーの新シンボルマークをデザイン

「ブルーベリー栽培発祥の地 こだいら」の新シンボルデザインの作成のため、小平市から本学の学生を対象とした作品募集の依頼があり、2007年7月に審査を経て決定した。

資料5 2006年度αMプロジェクト

年間ゲストキュレーター：加藤義夫

年間テーマ：生命の部屋

①植松琢磨展 2006.5.22(月)～6.3(土)

アーティストトーク：2006.5.27(土) 植松琢磨(関西大学卒業)＋加藤義夫

②石川卓磨展 2006.7.18(火)～7.29(土)

アーティストトーク：2006.7.18(火) 石川卓磨(本学大学院修了)+加藤義夫

③渡辺紅月展 2006.10.10(火)～10.21(土)

アーティストトーク：2006.10.14(土) 渡辺紅月(大阪芸術大学卒業)+加藤義夫

④黒澤麻衣子展 2006.11.20(月)～12.2(土)

アーティストトーク：2006.11.25(土) 黒澤麻衣子(本学大学院修了)+加藤義夫

⑤山本一弥展 2006.12.4(月)～12.16(土)

アーティストトーク：2006.12.9(土) 山本一弥(本学大学院修了)+加藤義夫

⑥川崎広平展 2007.1.15(月)～1.27(土)

アーティストトーク：2007.1.20(土) 川崎広平(本学大学院修了)+加藤義夫

⑦森燐展 2007.2.26(月)～3.10(土)

アーティストトーク：2007.3.31(土) 森燐(本学大学院修了)+加藤義夫

⑧金田実生展 2007.3.12(月)～3.24(土)

アーティストトーク：2007.3.17(土) 金田実生(多摩美術大学大学院修了)+加藤義夫

資料6 産学の共同研究・受託研究

○2003年度

共同研究・受託研究先	プロジェクト名	担当学科名
アイリスオーヤマ(株)	[I] プロジェクト	工芸工業デザイン学科、基礎デザイン学科
トヨタウッドユーホーム	狭小空間 HUT-II <環具>の研究	工芸工業デザイン学科
森下(株)	花と緑と生活環境	視覚伝達デザイン学科、工芸工業デザイン学科
日産自動車(株)	[N] プロジェクト	工芸工業デザイン学科、基礎デザイン学科
サントリー(株)、(株)博報堂	若者ウイスキーと出会う	視覚伝達デザイン学科
INAX(株)	INAX との産学合同授業『水回り空間計画』	工芸工業デザイン学科

○2004年度

共同研究・受託研究先	プロジェクト名	担当学科名
INAX(株)	INAX との産学合同授業『水回り空間計画』	工芸工業デザイン学科
カシオ計算機	[X] プロジェクト	工芸工業デザイン学科、基礎デザイン学科、デザイン情報学科
アイリスオーヤマ(株)	[I] プロジェクト	工芸工業デザイン学科、基礎デザイン学科、デザイン情報学科

社会貢献

○2005 年度

共同研究・受託研究先	プロジェクト名	担当学科名
スズキ(株)	「SUZUKIプロジェクト」近未来インパネデザイン	工芸工業デザイン学科
株本田技術研究所	次世代スモールカーの提案	工芸工業デザイン学科
財団法人森下美術館	「森下美術館」開館 30 周年記念事業 ー美術館における総合的デザインの 試み	視覚伝達デザイン学科、芸術文化学 科
株東芝デザインセンター	画像データベースをモチーフとした Web インターフェース開発	デザイン情報学科
株INAX	しきりと空間	工芸工業デザイン学科
アイリスオーヤマ(株)	ウォッシュライフ	基礎デザイン学科

○2006 年度

共同研究・受託研究先	プロジェクト名	担当学科名
IKEA・スウェーデン	スモールスペースリビング、ローシー ティングの研究	工芸工業デザイン学科
株Duogate	ケイタイでのインターネットサービス 利用に関する研究	視覚伝達デザイン学科
三菱電機(株)	ワンセグケイタイのデザイン研究	デザイン情報学科
株東芝デザインセンター	携帯マルチ・デジタル情報ツールの提 案	工芸工業デザイン学科
株カナツー	台車デザイン	基礎デザイン学科
株レスカ	計測器のデザイン開発	工芸工業デザイン学科
株INAX	しきりと空間	工芸工業デザイン学科
アイリスオーヤマ(株)	収納生活	基礎デザイン学科